

異文化

51



横綱朝青龍の体調不良や関係者の対応、帰国について連日ニュースで取り上げられています。横綱本人が話をしたわけでなく、報道されている多くの内容は推し量つている表現が多いように感じます。夏巡業前に診断書が出ていたこと、政府間の交流イベントでサッカーをしていたこと、9月の場所で活躍が見られないという事実以外はよく分かりません。外国人力士として日本の相撲界を引っ張ってきた横綱朝青龍ですが、この一連の報道が始まってから私は「日本で働く26歳の外国人男性」という視点で見ていました。そしてこれには私の推測ですが…

才能に恵まれていたとはいえ、開発途上の大陸はいえ、開発途上の大陸から初めてこの島国日本に住むことになった17歳のころから、緊張は続いたのです。日本に長く住んでいたのではないかと思っていたのではないかと思いつたのです。日本人に長く住んでいたのです。

んでもなかなか日本語が上達できず、いろいろ外国人が多い中で、彼はまるで日本づつよって、そこそこ

なつた外国人の方々を毎年見てきました。来日している間、研修についていけない、母国の治安や家族のことが心配、過去に受けた紛争などでの悲しい体験を頻繁に思い出してしまうなど、単純にホームシックやカルチャーショックとは言えない英語があまり得意ではなかったんだが、本当に苦しかったんだつ

せるかどうか不安でした。が数時間後、やっと見つかり電車を乗り継いでできちもひました。病院の待合室に現れニッコリ笑つて一声発したコーディネーターを見たとたん、彼女は壇^はを切つたように立ち出し、嗚咽^{おえき}しながら葉を吐き出しました。本

朝青龍とコトバ

過し、日本語はなくとも研究結果を残して修了しなくてはいけない精神的にバランスを崩す堪能で仕事も優秀、昇進を果たすも仕事ができ研修での使用言語である英語への不安、母国に残らない状態になってしまった。こした小さな子供の心配、うじつたこひきさまがまそんな中で心身のバランスを崩したのでした。贝していのではないでしょか。もし朝青龍が精神的によくない状態の神的によくない状態の並んで座つていしてもどであれば、26歳の彼の人うするじとむだがません生を考えたとき、本人やでした。

前青朝

うへたことはありません。そんな中で心身のバラ
な職種の外国人にも増加してゐる。それでし
てはいるのではないでしょ。朝青龍が精
神的によくない状態なのですが、もしこ
であれば、26歳の彼の人生を考えたとき、本人や
本人の家族にとっても十分な治療が必要だ
精神的にバランスを失うことがあります。そこで彼女の母国語
で話せるコーディネーターや、彼女がお頼いしま
い仕事ができない状態に

る もなりうるし、心身健康
でござれるのはじゅんなん
方の支えでたまたまバラ
ンスを保つことがはじめて
いる、ありがたいことな
のだと思ひました。